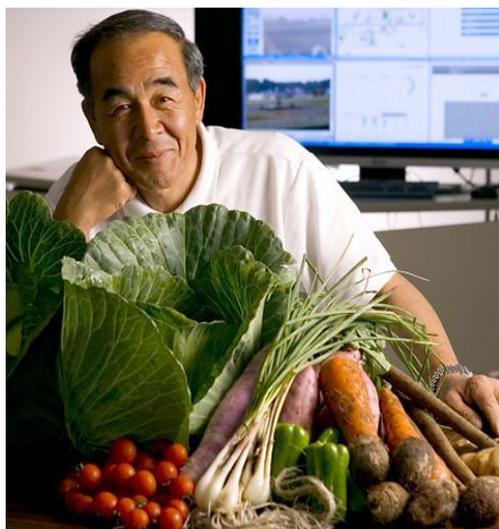


# 若者が選択したい産業としての 農業経営を目指して



農業生産法人 有限会社 新福青果  
代表取締役 新福 秀秋



社名 : **農業生産法人 有限会社新福青果**

所在地 : 宮崎県都城市 支社宮崎県西都市

代表者 : 新福 秀秋

設立 : 昭和62年6月(平成7年農業生産法人)

資本金 : 6115万円 「個人農業者・従業員持株会・農業法人・大手IT企業・大手量販店・アグリビジネス投資育成・その他」

年間栽培規模: 直営農場355ヶ所「筆」・124ha 「都城市・西都市」 契約農場470戸 250ha

従業員 : 68名(グループ組織・関連会社含む)

外部協力会社 : 9社 (地域高齢者専用農業生産法人・社会福祉法人・カット野菜工場含む)

作業受委託

計120名

## 新福青果の3つの柱

1. 安全・安心への取組み「経営～消費者」
2. 地域農産物の有効利用
3. 地域への貢献「人・もの・かね・情報」



美しい笑顔  
大好き!

# 農業の新しい地平を切り開く「あんぽんたんシステム」

農業は一人ではできない。  
 農業を普通の産業にするには、生産者（1次）が加工（2次）・販売（3次）を把握し、消費者の指向を理解した上で、農業生産を事業として行う意識改革が必要。

国が進める「農業生産のICT化・ロボット化等の技術革新」や、「6次産業化」は、まさに、農業者の意識改革を加速させることに意義がある。



土からの恵みを大切に受け止め、感謝の気持ちをいつも持ち続け、地域の一員として、小さいながらも「光る」存在でありたい。

新福秀秋

## 新福青果の「あんぽんたんシステム」

### 「安心・安全・安価」のアン

農作物は、生産物ではなく商品。食卓に並ぶ農作物は、安全・安心でリーズナブルでなければならない。



### 具体的な取組

- ・大手量販店のPB規格をクリアした契約生産
- ・GGAPの取得による輸出の促進
- ・グループ入札による資材費の圧縮

### 「本物・本質」のポン

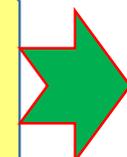
自然に逆らった農業はできない。農地毎に得手不得手がある。経験や勘を情報として蓄積・分析し、最適な生産環境を確保する必要



- ・大手IT企業と連携した農地・作業員ごとの作業のデータベース化。
- ・作業管理・栽培管理・行動管理のマニュアル化

### 「単純・簡単」のタン

農業は、同じ作業指示をしても作業員によって農作業の質がバラつく。結果として、資材や時間のロスばかりか、単収まで差がでる。  
 農作業の機械化・自動化や、農地集積による動線の単純化が必要



- ・農地の大区画化による農作業の機械化・自動化
- ・フィールドサーバーによるほ場センシング
- ・農地集積による動線の単純化

## 農業のフランチャイズ化、女性活躍、24時間化による農業革命

- ・「食生活」の習慣が生鮮品から中食・外食に大きくシフトし、購買パターンも大手量販店やコンビニに単純化。
- ・この結果、農作物の需要は、大手量販店と食品加工企業に集約化。
- ・これからの産地は、これらの企業とWin-Winの関係を構築できる企画とロットを持った産地経営体として機能すべき。
- ・アグリランド(南九州の産地加工・集荷拠点)を整備することで、北海道に匹敵する食料供給拠点を整備。

### 国際化 (海外企業との分業)

- ☆農地バンクを活用した農地利用のゾーニング化
- ☆産地加工・集荷拠点の整備による加工・流通コスト削減
- ☆農業用ロボットの開発導入

### 「のれん分け」による農業法人経営のフランチャイズ化 = 大口契約に対応できる新しい農業経営組織の育成 =

### 地方創生 (地方発意の取組)

- ☆親法人から独立し、新法人を立ち上げる若者に、親法人・アグリランドが共同出資
- ☆アグリランドは農業施設・機械をリース
- ☆JAとの有機的な連携強化



### 農業生産活動の24時間化 = 農業のFA化による生産力向上 =

### 農業経営者としての女性参画 = 女性の視点・感性による農業の経営革新 =

### 他産業との連携 (学際的な技術・人材交流)

- ☆勤務時間のフレックスタイム化
- ☆労働環境のユニバーサルデザイン化
- ☆産地での商品企画化

### 人材育成 (大学・企業との連携・ 中学・高校からの農業教育)

# 【効果①：経営支援】

企業スタイルの確立ができ、毎年同じ収量・品質維持に役立っています。

- 企業独自の栽培ノウハウやルールを確立し、全社員で共有。
- 栽培ノウハウやルールに基づいたアドバイスにより、ミスが低減。

以前



こんな状態でした

※従来は・・・

- 同じ収量・品質を確保するための**独自ノウハウ・ルールが定まっていない**
- ノウハウやルールに基づいた栽培が出来ていない

現在

栽培ノウハウ・ルール抽出と実践



ノウハウ・ルールに基づいた  
作業候補を提示

作業の振り返りからノウハウ・ルールを抽出

実績・ナレッジポイント情報

- 栽培後に作業実績を振り返り、独自ノウハウやルールをナレッジ化。
- ナレッジに基づいた、行うべき作業の候補を提示し、作業計画に反映。

# 【効果②：人材育成】

「背中を見て育て」ではなく、「皆で共に育つ」風土になりつつあります。

- 写真を使った情報共有による、技術の継承。
- 成功例や失敗例を蓄積することで、反復学習が可能に。
- 蓄積した情報を皆で振り返ることで、悩みや疑問もともに共有。

以前



ちゃんと伝わったかな？

口で言われても  
わからない...

こんな状態でした

※従来は・・・

- 「目」で見た状況を「口」だけで伝えるため、情報を正しく伝えるor理解することが難しい
- 教わった情報を反復して確認出来ないため、すぐに忘れてしまう

現在

見回り支援と見回り結果検索



写真+  
位置情報



- 写真を使った情報共有と技術指導
- 写真+コメントで情報蓄積

# 【効果③：現場支援】

現場のミスが減り、安心・安全で良質な野菜の生産に役立っています。

- 作業実績と農薬DBにより、計画時に散布可否を確認できる。
- 適切な作業を過去データや制限からアドバイス、収量アップに貢献。
- 圃場で見たい情報を確認できるので、事務作業時間を軽減。

ヒューマンエラー防止

栽培リスクの削減

以前



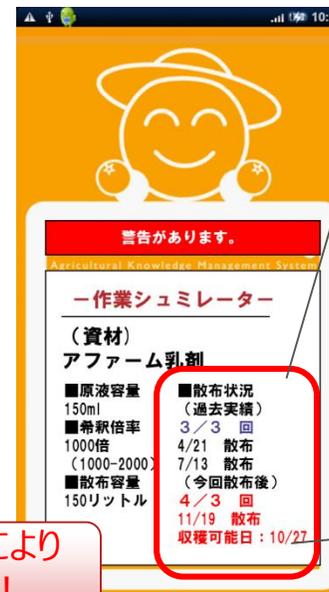
こんな状態でした。

※従来は・・・

- 農薬散布後にミスが発覚し、売り物にならないことがあった。
- 従事者の違いによる、作業のダブリや抜けがあった。
- 圃場に出てから情報がわからずいちいち事務所に戻って調べていた。

現在

圃場毎の作業履歴の参照



■散布状況  
(過去実績)  
3 / 3 回  
4/21 散布  
7/13 散布  
(今回散布後)  
4 / 3 回  
11/19 散布  
収穫可能日：10/27

散布・前作業履歴により  
現場判断を支援！

- 自動(GPS)で圃場を特定し、関連情報を表示
- 過去の作業履歴を元に現場判断を支援



# 【効果④：その他(ワークスタイルの変化)】

自然にワークスタイルが変化しはじめた。

- 毎週末定時に営農担当者全員によるプロジェクトを使ったミーティングが習慣化。
- 富士通や県試験場の入った月1回の定例会で、早期に軌道修正。
- 毎収穫後の振り返り会にて良い点・悪い点を明確化し次作に生かせる。

以前



こんな状態でした

※従来は・・・

- 日々の作業に終わり、収穫後に振り返る事をしていなかった。
- 情報共有不足やスキル不足で無駄やミスが発生していた。

現在

ワークスタイルの変革



- 従業員一人一人の責任感が向上
- より良い視点・より良い手法を議論して決定。
- DATAの大切さを感じ、入力が積極的に。



(時間軸の最大活用化)

ロボット技術を活用した無人トラクターによる農業の24時間化に期待

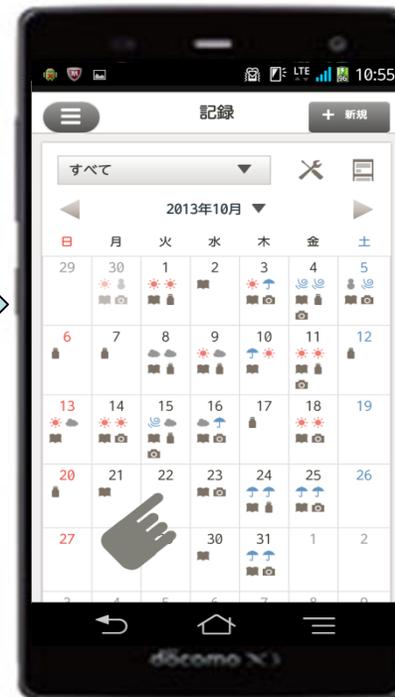
(人材育成・女性活用)

ICTを活用した経営の見える化・PDCA・農業の産業化

GPS制御トラクタ



農作業の見える化



農場のデータ化

